

The background features a collage of anime-style illustrations of young women. A central figure is a girl with short brown hair, wearing a blue dress with a red bow, looking towards the viewer with a slight smile. Other girls are visible in the background, some looking surprised or excited. The overall color palette is warm, with soft pinks and oranges.

妹派遣委員会 こよみ

エッチで可愛い、処女の妹がやってきた

突然舞い降りた女の子は
お兄ちゃんだけのエッチで処女な妹だった♡



こよみは今日から
お兄ちゃんだけのエッチな妹だよ——

おっぱいも、おま○こも
もちろん処女も……♡
ぜんぶぜらんぶあなただけのもの♡

突然現れたこよみちゃんとは
どんなエッチな事でもきいてくれる妹♡





妹派遣委員会 こよみ

エッチで可愛い、処女の妹がやってきた

ピンポンピンポンピンポンー！

けたたましいチャイムの連打音で目を覚ます。

童貞で無職の俺の惰眠を邪魔するなんて……
セールスだったら、会社にクレームの電話入れてやるうか——

ピンポンピンポンー！

「わかったわかった、今開けますからっ！」

「初めまして！
妹派遣委員会から参りました、こよみです」

「は…？いも…なんて？」

「妹派遣委員会ですよっ！
これからお兄ちゃん…つまりあなたの元でお世話になります♡」

「新手の風俗の勧誘とかか…？あいにくだけど俺は…」

「もー違うよお兄ちゃん、妹派遣委員会っていうのはね…」



突然目の前に現れた彼女、こよみちゃん
彼女が説明するには

『妹派遣委員会』

明らかに胡散臭い名前だが
なんでも、童貞を貫く男――
そして、何より妹がいないのに妹が好き男の元へ
選抜された「妹」を派遣してくれる謎の組織……らしい。

「委員会が、お兄ちゃんに一番相性の良い妹を選定した結果
選ばれたのが私だったんです
だから私はお兄ちゃんの理想の妹のはずですよ？」

「た、確かに見た感じ、外見や仕草なんかは俺のストライクだけど……」
あと、おっぱいのでかさも俺のストライク。

「全国の童貞男子の中からでも、委員会から
妹が派遣されるのは100人に1人なんですよ、やったねお兄ちゃん！」

「結構割合高いな、そんなに妹が溢れてるのかその組織」

「まあまあ、せっかく選ばれたんですから
遠慮なくもらっておきましょうよ、いもーと♡」

「どりあえず胡散臭いのは置いて、こよみ？が来た理由はわかったが——お前はそれで平気なのか？」

「お兄ちゃんは、こよみが妹じゃ嫌？」

「いや、むしろ嬉しいっちゃ嬉しいんだが俺、ぶっちゃけ妄想で妹犯しまくったりしてるぞ？目の前にストライクの妹が現れて、我慢とかできるわけ……」

「こよみは妹になったんだからこよみの全部は、もうお兄ちゃんのものだよ？今までの妄想、これからは本物の妹でしちゃう♡」

「そりゃ嬉しいけど俺、知っての通り童貞で……」

「私も処女だよ♡初めて同士だから怖くないね♡」



「ほらほらお兄ちゃん♡
こよみの全部を好きにしていいいんだよ？
これで信じてくれるかなあ？」

こよみがスカートをたくし上げ、下着を見せつけてくる。
薄いピンク色の、まさに俺好みのパンツだった。

「ね♡お兄ちゃん♡
こよみとエッチなことしちゃお♡」



「あ……
お兄ちゃん、おちんちんおっきくなってる……
こよみの、ぱんつで興奮してくれた？」

「……っ、……お、おう」

目まぐるしい展開で、頭が追いついていかないが
よくよく考えればリアルで
女の子のパンツを見るのなんて初めてだ。
体は素直に反応し、ギンギンに勃起していた。

「えへへ♡
うれしいな♡うれしいな♡
じゃあ、こうしたらどうなっちゃうかなっ♡」



「はいっ♡
妹おまんこだよっ♡」

「お、おまん…っ」

こよみが、さっとパンツを下ろし
おまんこが露わになる。

ニムルッ…♡

「見て見て♡
お兄ちゃん…これが、お兄ちゃん専用の妹まんこだよ♡」



体が操られるように、近づき
こよみのそこに、釘付けになる。

「お兄ちゃん、こよみみたいな
つるつるのパイパンおまんこ好きでしょ？」

好き過ぎる。
というか現実には、目の前に
それがあるという状況に
頭がクラクラとした。

割れ目に顔を近づけると
むっと、甘い雌の香りが漂う。

「こよ、こよみつ…これ、本当に俺がつ

つるん♡

「うん♡こよみの妹まんこ♡
お兄ちゃんの好きにしていんだよ♡」

「本当の本当にいいんだな!?
俺と…セックスするんだなっ」

「うん♡
こよみ、お兄ちゃんとセックスしたいな♡」

「こよみの妹処女…もらってくれる?」

興奮で言葉が上手く出てこずに
ふんふんと息を荒く頷き返す。

「えへっ♡じゃあ…
こよみをベッドに連れてって…♡」



焦る気持ちだが、こよみの手を乱暴に引いて
寝室へと連れ込み、こよみをベッドに寝かせた。

「初めてだからちょっとドキドキするね、お兄ちゃん♡」

「こよみ、俺…前戯とかうまくできないと思うけど」

「私も処女だら大丈夫だって♡
うまくとかじゃなくて、素直にエッチ楽しんでお♡」

「そ・れ・に」

すると服を脱いで、全裸になったこよみが
こちらに大きく足を広げて――



「きっと前戯なんて必要ないと思うなあ♥」

「もう、いつでもおちんちん挿入れるよ?♥」

ドキドキ



「ほら見て？」

「こよみの膣内…えっちなお汁でとろつとろでしょ？」

こよみが指で、おまんこを開く。

こよみの言う通りに膣内は
透明な愛液がくちゅくちゅと音を立てて糸を引いていた。

初めて見る、女の子のおまんこ…
クリトリスも尿道も膣も、それらを濡らしている愛液も――

ドキドキ

「あ♥お兄ちゃん♥
もう、おちんちんすっごいね…♥
がちがちに反り返ってお腹にあたってよ♥」

にぱっ

「い、挿入りたい…こよみ！挿入りたい！」

「挿入れる前に、こよみのおまんこの中、見てっ、こいっ♡」

こよみが、ぬちゃぬちゃと指で入り口のところを弄りながら指さす。

「こよみの処女膜見える…?」

そこには確かに、薄桃色で半透明の処女膜が
未だ誰の侵入も許していないことを主張していた。

ドキドキ

「こよみが生まれた時から
お兄ちゃんに破ってもらった為にあつた処女膜だよ♡
今からお兄ちゃんのおちんちんで破っちゃう処女膜
…ちゃんと見ておいてね♡」

にぱっ♡

「こよみっ！俺もっ！」

「ふあああっあんっ！」

僅かな抵抗を突き破ると
ぬるっと温かい膣肉に包まれる。

「こよみ…こよみつ
もらったぞ、こよみの処女…っ」

「う…んっ♡
こよみの処女膜…やっとお兄ちゃんに破ってもらえたあ♡」

「ごめんっ、こよみの膣内気持ち良すぎて
俺っ、我慢できないっ…!!」

破瓜の痛みに顔を歪めるこよみが心配だが
勝手に腰は動いてしまい、こよみの奥へ奥へと沈み込んでいく。



「お兄ちゃんっ♡
そんなに激しく腰振って…気持ちいいの？
こよみの処女まんこで気持ちよくなれてる？」

「気持ちいいっ、まんこっ
こよみのまんこっ、おまんこっ！」

興奮を叫び、獣のようにひたすら腰を振る。

「あん♡あんっ♡
おちんちんがっ、おちんちんがおまんこの中でっ♡」

ずちゅっ

ぐちゅ

段々とこよみの表情が蕩けていき
快感に満ちた甘い声が部屋に響き始めた。



「どうしよお、お兄ちゃんっ♡
こよみ処女なのにつ、処女おまんこなのにつ
お兄ちゃんのおちんちん気持ちいいのっ♡」

自分が今感じている、初めてのセックスの快感
それと同じものを、こよみも感じていてくれると思うと
たまらなく愛おしく思えた。

「お兄ちゃん、気持ちいいねっ♡
セックス気持ちいいねっ♡」

「ああ！こんなに気持ちいいんだな…
好きな人と繋がるのって！」

ずちゅっ

ぐちゅ



「あっ、いますきって言った！
こよみのことすきって言った！♡
ダメダメダメっ♡嬉しくてイっちゃうっっ！」

思わず漏れた言葉だったのに。
こよみが身をよじらせて悶える。
膣内が強く締めまり、ビクビクと激しく痙攣するのを感じた。

「こよみ、俺ももう射精るっ！
このまま膣内に射精していいかっ…いや
膣内に射精すぞ…っ！膣内射精するぞっ！」

「イクっ♡おまんこイクっ♡
おまんこに射精してっ！こよみの処女まんこにっ♡
お兄ちゃんの精液全部おまんこの中に注いでええっ！」

ずちゅっ
チュウウウウッ♡



ドピ
ニルニル♡

「おまんこイくぅぅぅぅぅぅぅーっ♡♡♡♡」



「射精てるっ♡
おちんちんから精液びゅっって♡
こよみの処女おまんこの腔内に射精てるのっ♡」

「ああっ、射精してるぞ!こよみ…
全部妹まんこで受け止めろっ…!」

ガクガクッ

ガクッ

どくどく♡
どくどく♡

「ああああっ!
妹にっ腔内射精っ!…処女に腔内射精っ!
こよみっ、こよみい…!」

「はぁーっ♡はぁーっ♡
セックスすごいっ…おちんちんすごいよお…♡
こんなの知ったら、毎日セックスしたくなっちゃうよお…♡」

ガクガクッ

ガクッ

どぼっ、と音がして
こよみのまんこから精液が溢れる。
少し血が混じっているようで
処女を奪った征服感と
膣内射精したという満足感に胸が満たされた。





「お兄ちゃん♡
こよみにいっぱい膣内射精してくれてありがとう♡
それに…すきって言うてくれたよね…♡」

惹かれてるのは事実であるので
いちいち否定なんてしないさ。

ガクガクッ

ガクッ

「これからもういっぱいエッチしようね♡
お兄ちゃんっ♡」

「どうか、遠慮なく膣内射精したけど…
その、避妊とか大丈夫なのか？」

裸で抱き合いながら
真つ当な疑問をぶつけてみるが…

「???」

お兄ちゃん何言ってるの？
兄妹のセックスで避妊する人なんていないよー♡」

おかしそうに微笑むこよみ。
冗談なのか本気なのか、微妙にわかり辛い。
妹ナントカ委員会、大丈夫かオイ。

まあ、そんなわけで
こうして俺と妹、こよみとの生活が始まった――

ガクガクッ

「んしょ、んしょっ」

半分寝ぼけたまま、違和感に気づく。
なんだが、下半身が妙に重くであったかい……

「ふふっ♡朝からおっきいんだから♡」

「なんか、気持ちいい……」

「あっ、お兄ちゃん起きた♡おはようっ♡」

半開きの視界に、柔らかな肌色の輪郭が目につく。
そうだが、昨日こよみとセックスして、そのまま……
ハっとなつて目を開けると全裸のままのこよみが――



「こよみ、えっと」

状況に頭が追いつかなくて、言葉がうまく出ない。

「おはようだよ、お兄ちゃん？」

「お、おはよう」

「お兄ちゃん、朝からおちんちん元気元気だねえ♡」

俺のが、こよみの大きな胸に挟まれて…
目の前の非現実な光景
しかし確かに感じるこよみの柔らかさが
昨日の出来事が夢じゃなかったと感じさせてくれた。



「んっ、パイズリってむずかしいね
お兄ちゃん気持ちよくなれてるかな？」

こよみが、両側からこすり上げるように
大きな胸を上下に揺らす。

柔らかさと温かさから来る快感は
セックスとは違う心地よさがあり
腰から先全体を愛撫されているようだった。

「こよみのおっぱい、めちやくちや気持ちいいから」

「そっか♡えへ♡
喜んでくれてよかったあ♡」



「あっ♥えっちなところ出てきたね♥
お兄ちゃんがこよみのおっぱいで
おちんちん気持ちよくなってくれてる…♥」

こよみが大きな胸を揺らす度に
ぱちぱちと当たる音が鳴ってエロ過ぎる。

「こよみ、おっぱいおつきくてよかったあ♥
お兄ちゃんにいっぱいパイズリしてあげられるもん♥」

たはっ
ん

ぎゅっ♥

ぽにゅ♥

たふっ
ん



「んっ、んっ…♡
どうしようっ、お兄ちゃん…:
こよみもおっぱい気持ちよくなっちゃってる♡」

こよみがパイズリの刺激で感じている。
理想のエロ妹過ぎて、俺のモノが更にギンギンと固くなる。

「こよみっ、こよみのおっぱいで射精そうっ…!!」

「射精して射精してっ♡
こよみのおっぱいにっ、
おまんこみたいにいっぱい射精してえっ♡」

たはんっ

たふんっ

はあ

はあ

ぎゅ♡

ぽに♡

「ひああんっ♥精液でてるっ♥
おっぱいの中でびゅくびゅくって!♥」



「こんなに熱い精液かけられたら
「よみもおっぱいでイっちゃううっ♥」

「はあっ♡はあっ…♡
おっぱいでイクなんて初めてだよお…♡」

絶頂の余韻に、こよみが肩を上下させながらも
飛び散った精液を舐めとっていく。

「ん♡これがお兄ちゃんの精液の味♡」

「そんなに俺の精液飲みたかったのか？」

「昨日は全部おまんこの腔内にもらっちゃったから
お口でこっくんはできなかったもんね♡
んく♡凄いえっちな味がして美味しい…♡」

ごく、ごく、と喉を鳴らす音が聞こえる度に
こよみのおっぱいに挟まれたままの股間が
固さと熱さを取り戻していく。

俺の精液をこんなに幸せそうに飲んで――



「こよみつー」

組伏せるようにこよみを押し倒した。

「ぎゃっ」

「あっ、。。。めっ」

パイズリされて興奮していた頭が
こよみの驚いたような表情で一瞬冷静になる。

しかし――

「びっくりしただけだから大丈夫だよ♡
それよりお兄ちゃん♡こよみとエッチしたいんだね♡」

こよみは笑顔でそう言いながら
足を大きく開いて、俺を受け入れる態勢をとる。

「お兄ちゃん♡こよみと2回目のエッチしちゃう♡」

「あ♥お兄ちゃん、こよみのおまんこ見てる♥」

「だ、だってこよみのおまんこ綺麗すぎて…」

じゅるん♥

ぷにっ♥

ドキドキ

完全にぴったりと閉じた、たてすじまんこ。
余計な毛など一切無い
すべすべでつるつるのおまんこ——

「俺、昨日こんな極上のおまんこと
こよみとセックスしたんだ…」

「そうだよ♡
昨日お兄ちゃんが
処女膜破ったばかりの妹おまんこだよ♡」

こよみのおまんこを、指で広げると
膣内から、愛液が流れるように零れた。

ドキドキ

はっ♡

「こよみ、パイズリしてただけでこんなに濡れたのか…」

「うん…♡」

「というか、お兄ちゃんの側にいるだけで
おまんこの中すぐにとろとろになっちゃうんだよ♡」

「だから、おちんちん挿入して？♡
らぶらぶ兄妹エッチで気持ちよくなる♡」

「ううっ…こよみのまんこの膣内…
ぬるぬるであったかくて気持ちいいっ…!」

「お兄ちゃんのおちんちんもっ♡
熱くて固くておつきくて…っ
こよみもおまんこ気持ちいいのっ♡」

「動くぞ、こよみ!
セックスするぞっ…!」

「うんっ♡うんっ…♡
こよみのおまんこでっ…
おちんちん気持ちよくなって…っ♡」

ずばりっ

「気持ちいいよお♡
おまんこ気持ちいいよおっ♡」

彼女の甘い喘ぎ声を全身に感じながら
一心不乱に腰を振る。

ぬる♡

ずる♡

「こよみのおまんこっ♡
お兄ちゃんのおちんちん覚えちゃったのっ♡
妹おまんこ、エッチになっちゃったのっ♡」

「もっとエッチになっていいからっ
毎日セックスしてやるからっ、こよみっ」



「する！するっ！」

毎日お兄ちゃんのおちんちんとエッチするっ♡

こよみの膣内の締め付けが一気にキツくなる。

「こよみつ、一緒にイクぞっ！」

膣内射精してやるから、俺の精液でまんこイけ！」

「イクっ♡イクっ♡」

今おまんこに射精されたら絶対イクっ♡
膣内射精でおまんこイっちゃうのっ！」

「おおおおおっ！こよみいっ！射精すぞっ！」

「こよみのまんこにっ！まんこっ！」



ずる♡

ぬる♡

「膣内射精精液でっ
おまんこイっちゃうよおおっ♡」

「お兄ちゃあああっ♡
射精てるうっ♡こよみの子宮にびゆるびゆるって♡
お兄ちゃんの精液がおまんこの膣内に射精てるのおっ♡」



「はあ…はあっ…♡
いっぱい射精たね、お兄ちゃん♡」

「ああああ…」

「昨日と今日でもう一生分の精液でたかも」

「射精の快感で腰に力が入らない。
こよみと抱き合う様に覆いかぶさった。」

ゴプゴプッ♡

はあ

はあ

「それはダメだよお、お兄ちゃん
これから毎日いっぱい膣内射精してもらうんだからあ♡」

「どうやらなかなか手ごわい妹のようだ…」



そして、
夜――

「こよみつ、こよみ…！」

ずばん

こよみがやってきて2日目だというのに
今日は1日中セックスばかりしていた。

というかむしろ、お互いセックスを経験してしまったから
その快感の誘惑に逆らう事などできなかった。

「お兄ちゃん…この態勢だとっ♡
おちんちん子宮にぐりぐり当たって気持ちいいよおお♡」

あん♡

あん♡

ぽん

あ♡♡

「ああっ、俺もこよみの子宮口突く度に
まんこの入り口がきゅうきゅう締まって気持ちいい！」



「だっつ♡」

お兄ちゃんに子宮突かれるとおまんこが精液欲しがっちゃうんだもん♡」

「あっつい精液もらえるんだって子宮が喜んでうんだもん♡」

ずばん

キュン♡
キュン♡

ぽん

あん♡

あん♡

膣内が激しく収縮し子宮口が吸いついてくるのを感じる。こよみの体が、本当に俺の精液を欲しがっているのだった。実感すればするほど、腰の動きは激しさを増していった。

あ♡

「こよみっ欲しいか！
俺の精液、子宮に欲しいのかっ！」

ずばん

「ほしいほしいっ♡
おまんこの膈内で射精してほしいのっ♡
子宮に熱いのびゆるびゆる注いでほしいのっ……♡」

「こんなに膈内射精ばっかりしたら
こよみ、俺の精子で妊娠するぞ！それでもいいのかっ」

キュン♡
キュン♡

ぽん

あん♡

あん♡

「するっ♡妊娠するっ♡
お兄ちゃん精子で妊娠したいっ♡」

あ♡



「妊娠したい妊娠したいっ♡
お兄ちゃんの精子でおまんこ妊娠させてっ♡」

すばん

いいのか—
本当に、こよみを妊娠させても…？
昨日出会ったばかりの女の子が
妹になつてくれて、セックスもして…

「お兄ちゃんっ♡
こよみを妊娠させていいよっ♡」

俺の迷いを察したように
繋がったままのこよみが優しく微笑む。

「お兄ちゃんは今まで綺麗な体でいたからっ
これからはいっぱい幸せになる権利があるのっ♡」

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡





「いいんだなっ！本当に妊娠するんだなっ！俺の精子、受精させてっ、ボテ腹にしているんだな！」

「なるなるっ♡」

「お兄ちゃんの精子でボテ腹妹になる♡だからこよみのおまんこに思いつきり孕ませ射精してっ♡」

ずばん

あん♡

あん♡

ぽん

「射精すぞこよみ！種付けするぞっ!!!」

「射精して射精してっ!!!」

「昨日まで処女だった妹おまんこお兄ちゃんの精子で孕ませてええええっ!!!」

あ♡



「妊娠しちゃうつ♡
昨日まで処女だったおまんこで孕んじやうつ♡」

「こよみつ、妊娠しろっ！
受精しろっ！俺の精子でボテ腹になれっ……！」

「ひああああんっ♡♡♡♡
射精てるうううううっ♡♡♡」

ビュッ♡

ビュッ！！



「あつ♡いまっ、はらんだっ♡絶対はらんだっ♡
「よみのおまんこっ...お兄ちゃんの精子受精したっ♡」

あつ♡

あつ♡

あつ♡

あつ♡

あつ♡

こよみの膣内を大量の精液で征服していく――

雌として一番大切な部分を
自分の遺伝子で染め尽くしていく満足感……
自分が雄に生まれてよかったと本能で感じる。

「おにいちゃっ……ん……♡」

こよみつ、体中がイッてるみたいになってるのっ……♡
これ絶対受精してる感覚だってわかるの……♡♡♡

こよみもガクガクと痙攣しながら
雌としての最高の快感に全身で感じているようだった。

「こよみつ……孕めっ、孕めっ……孕んでっ……」

「孕むっ……孕むっ……♡孕んでるよっ♡」

自分でも信じられないような
大量の精液をこよみの膣内にぶちまけ
崩れ落ちるように倒れた。

「ひゃー……っ」

「お兄ちゃん重いよお……」

「こめっ……でも……気持ちよすぎてっ……」

二人で、肩で息をしながら笑い合う。
こんな最高の妹と出会えるなんて
俺、この歳まで童貞で本当に良かった――

こよみとの生活も1週間が過ぎると
段々と二人の時間に慣れてきたものである。

「んく んちゅっ…じゅるる♡」

「こよみフェラ好きだよなあ」

こよみが妹になって、初日以外は
フェラされていない日は無いと思う。

「ぶはっ
だって、おちんちん啜えてると落ちつくんだもん」

「まあ俺は気持ちいいからいいんだけどさ」

「うんうん♡お互い気持ちいいからいいの♡
あむあむ♡ちゅっ♡♡」

ぬるぬるで、あつたかくて柔らかくて
崩れない人肌のゼリーに包まれているような——
こよみのフェラは何回されてもその快感に飽きることもなくて無い。

「んんっ♡じゅるっ、ずぞぞっ♡
おちんちんっお兄ちゃんのおちんちんっ♡」

下品で卑猥な音を立てながら
まるで俺のモノを吸い取るように丹念にしゃぶるこよみ。

「いつも思うけど、そんなに美味しいか？」

「うん♡お兄ちゃんだって
「こよみのおまんこべろするの好きでしょ？」

「まあ、確かに」



「お兄ちゃんのおちんちんはねー
あま、にが、しょっぱ、えろ、美味しい感じ♡」

「どんな感じなんだそりや」

「んふっ♡
多分お兄ちゃんが、こよみのおまんこ舐めてる時と
おんなじ感じだとおもうよー♡」

ああー
そりや確かに幸せだし
ずっと舐めてたくもなるかー、納得できる。

「とうか、こよみ…
俺そろそろ射精そう…」



ちゅ♡
じゅる♡
じゅる♡

しゅ♡
ぽ♡

「うんっ♡

このままびゅーって射精して♡

こよみのふえらちおで
気持ちよくなっただおちんちんでびゅーって♡」

こよみが射精を促す為に
顔を激しく前後させてしゃぶりあげる。
口の中では、こよみの舌が竿全体を舐めまわして
射精間近の精液が昇ってくるのを感じる。

「こよみつ！射精るぞっ！」

「射精して射精してっ♡

こよみのおくち、おまんこだと思ってっ♡
妹おくちまんこにいっぱい中出ししてっ♡」



「んんんんーっ♡♡♡♡」

こよみの口内に
びちゃびちゃと精液をまき散らしていく。

こよみが、こくこくと喉を鳴らして精液を飲むが
それ以上の速度で新しい精液を射精していく。

口元から溢れた精液がどばどばと零れ
こよみの手や顔を白濁に染めていった。

ちゃ♡♡♡♡

ドク♡♡♡♡
ドク♡♡♡♡
ドク♡♡♡♡

ドク♡♡♡♡
ドク♡♡♡♡
ドク♡♡♡♡

「精液美味しい…♡
お兄ちゃんの精液、お兄ちゃんの精液…っ♡」

「んっく♥んっく♥
ふはあっ…今日もどろどろ精液「ちそうさま」♥」

「あああー…気持ちよかった…
最近、こよみにフェラしてもらわないと1日が始まらないわ」

「うんうん♥これから毎日するからね♥
こよみの妹お口まんこに、好きな時に好きなだけ中出ししてね♥」



こよみとの生活が始まって、一ヶ月――

「お兄ちゃんっ♡
今日はスク水だよスク水！
スク水の妹とエツテしようよおー♡」

こよみがスクール水着姿で、抱き着いてくる。
昨日はメイド、その前はブルマ……その前は――
コスプレセックスも色々してきたが
改めて、やはりスク水は最高だなあと思う。

「それにしても、こよみ……」



「前よりおっぱいおっきくなってるないか？
いや、こよみは元々巨乳だったとは思うけど」

「お兄ちゃんが毎日いっぱ揉むから
おっきくなったんだよ多分、…それとも」

「赤ちゃんできてるから…かな？」

ゆるみきって、にやけた顔でこよみがお腹をさする。

「できてるかなあ」

「この一ヶ月で、こよみに何回中出しした？」

うーん、1日に3回はしてるから…100回くらい？

「まあ、できてるだろうなあ…確実に」

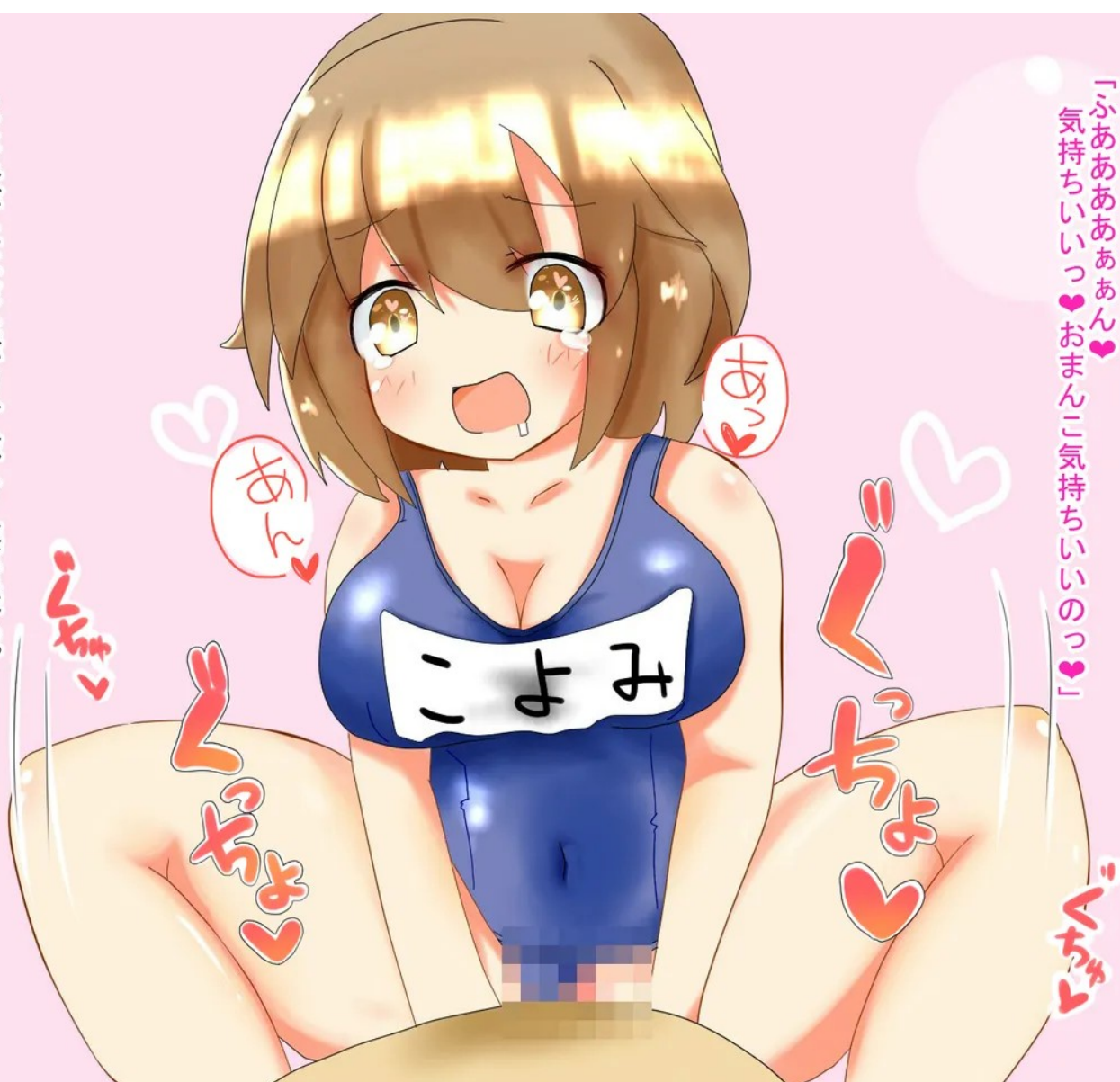
「そっだよ、ね♡」



「ふあああああん♡
気持ちいいっ♡おまんこ気持ちいいのっ♡」

こよみが上にまたがり、激しく腰を振る。

こよみが腰を落とすと、奥の子宮がグリグリと当たるし
腰を上げると、竿全体を吸い上げられるようで
その動きの全てに、こよみの愛液が絡みついてたまらなく気持ちいい。



「こよみのおまんこっ♡
お兄ちゃんのおちんちんぐつちより啜えちゃってるっ♡
兄妹セックスで、えっちなお汁止まらないのっ♡」

部屋中に響く卑猥な水音と
こよみが繰り返す淫語に興奮が加速していく。

「こよみ、お前エロすぎるっ…」



「エッチなお兄ちゃんの妹だもんっ♡
お兄ちゃん、こよみがエッチなこと言っていると喜ぶよねっ♡
おまんこっでいっぱい言っていると喜ぶの知ってるもんっ♡」

「いっぱいエッチなこと言うよっ♡
お兄ちゃんが喜んでくれるなら♡」

こよみが健気さが可愛すぎて
結合部の快感がどんどん増していくのがわかる。

「おまんこっ♡おまんこおっ♡

気持ちいいの♡妹おまんこぐちよぐちななのっ♡
お兄ちゃんとのセックスでおまんこ幸せなのお……っ♡」



「こよみつ、そんなに激しくしたら
射精するぞっ…こよみのまんこに…!!」

「射精しちゃおっ♡精子♡おまんこにつ♡
もう絶対妊娠しちゃってる妹おまんこにつ♡
もっともっと精子注いで赤ちゃん双子にしちゃおっ♡」

あゝ♡

あゝ♡

「ああ…射精すぞ！
こよみのまんこにつ、妹のおまんこにつ！」

「射精してっ♡」

こよみのえっちなお汁とおにいちゃんの精子♡
ぐちゅぐちゅに混ぜて赤ちゃんにしちゃおっ♡
妹おまんこに膣内射精してえええっ!!」

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

ぐちゅ♡

「ひあっ！おまんこに射精てるっ♡
おまんこの膈内に精液びちゃびちゃかかてるう♡
お兄ちゃん精子っ妹子宮で全部受精してるよおっ♡」

「全部受け止めるっ、子宮の中俺の精液で満タンにしろっ……！」



「満タンにしてっ♡
こよみのおまんこっ、こよみの子宮っ♡
お兄ちゃん精子を受け止める精液タンクにしてっ♡」

「んんんーっ♡
子宮満ちてくうう…っ♡
お兄ちゃんの精子で子宮あついよおっ…っ♡」

こよみが望むまま、膣内射精する。
熱い膣肉に包まれたまま射精する快感
そして雌の子宮に容赦無く精液を注ぎ込む満足感。

こよみと居ると
愛する人とのセックスをやめられない理由がよくわかる。

「おまんこっ♡おまんこイってるっ♡
お兄ちゃんに膣内射精されると、すぐイっちゃうっ♡
おまんこも子宮もっ、きゅんきゅんなるのっ♡」

精液を全て子宮に出し切ると
こよみが、倒れ込んでくるので抱きとめる。



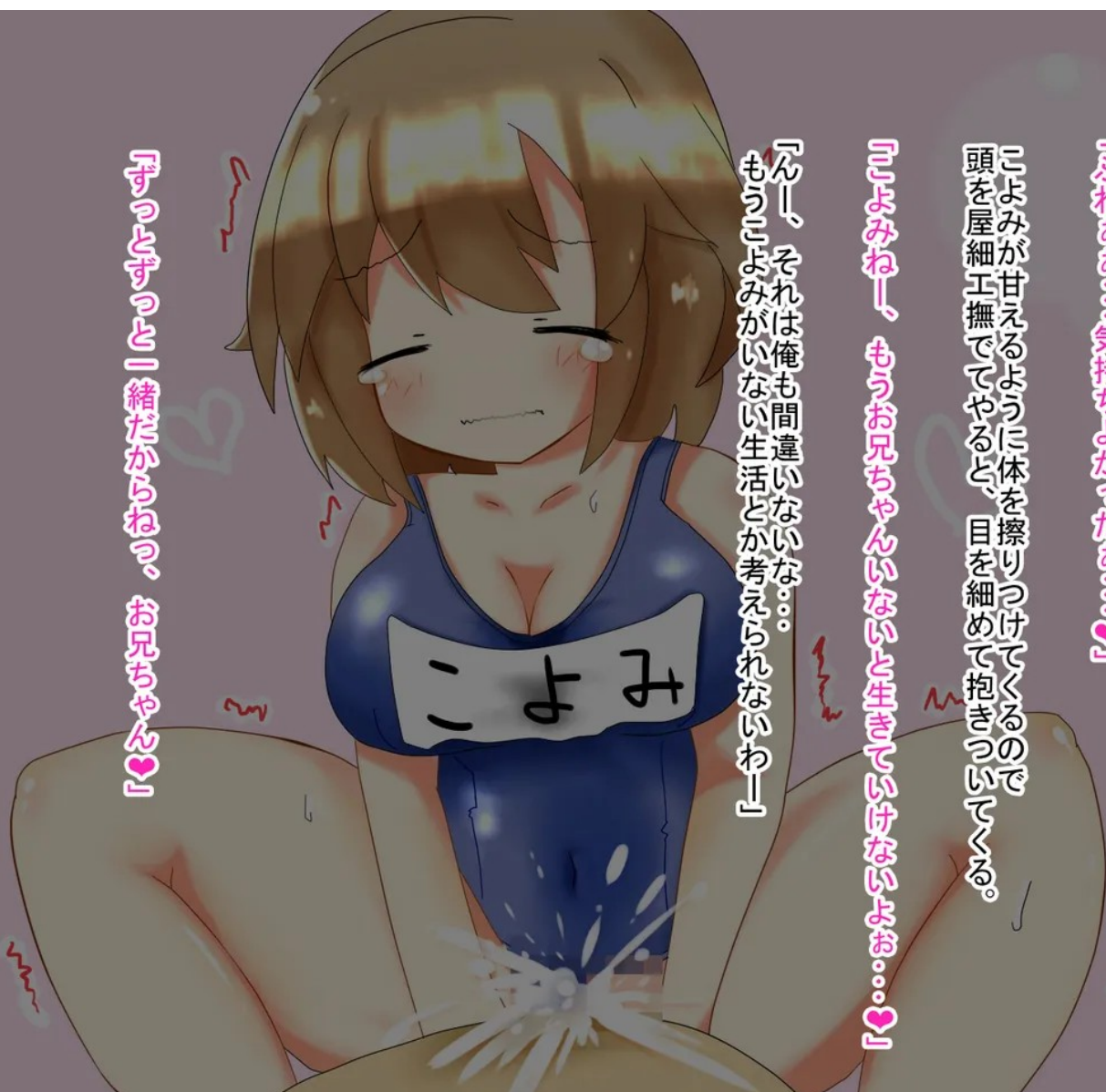
「ふわああ…気持ちよかったあ…♡」

こよみが甘えるように体を擦りつけてくるので
頭を屋細工撫でてやると、目を細めて抱きついてくる。

「こよみねー、もうお兄ちゃんいないと生きていけないよお…♡」

「んー、それは俺も間違いないな…
もうこよみがいない生活とか考えられないわー」

「ずっとずっと一緒だからねっ、お兄ちゃん♡」



数か月後――

「お兄ちゃんお兄ちゃんっ♡
妹派遣委員会からこれが届いたよっ!」

笑顔で駆け寄ってきたこよみが持つ1枚の紙を見ると……

「なんだこりゃ、こよみの戸籍……?
って苗字が俺と同じになってるな……って」
「とは」

「うん!これで名実共にお兄ちゃんの妹になれたんだよ!
えへへ、嬉しいな♡嬉しいなあ……♡お兄ちゃんっ♡」

というか戸籍の捏造……って
まあ、こよみが側に居てくれるのなら
その辺りは詮索しないでおこう。

「それにしても……」



「見事に孕んだなあ」

俺の子を妊娠したこよみのお腹を撫でる。

「えへ、えへへえ…♡

お兄ちゃんとこよみの赤ちゃんだよお…♡」

「ボテ腹妹いいなあ、エロいなあ」



「んふふ♡

お兄ちゃん専用のボテ腹妹だよー♡」

「ああもうこよみ愛してる愛してるっ」

抱きしめて、頭もお腹も全身撫でまわしてやる。

「もー♡お兄ちゃんったら♡

でも、そんなお兄ちゃんに嬉しいお知らせがもう1コあるんだよ♡」

こよみに手を引かれ、リビングに座る。
こよみはソファにもたれかかると、上着をまくりあげ
妊娠で更に大きくなったおっぱいをさらけ出した。

大きなおっぱい、大きく膨らんだおなか
俺がこの娘を妊娠させたのだという確かな証拠――

「えへへ♡お兄ちゃんならきっと喜んでくれるよ♡」

そう言うと、こよみは自分の胸を
ぎゅっぎゅと絞るように揉みはじめた。
真っ白で柔らかい胸が、ぐにぐにと形を変えて非常にいいらしい。



「んんー♡
お兄ちゃん準備いいー?」

「お、おう」

何だかわからないが、こよみが笑顔なので心配ないだろう。

「んー♡お兄ちゃんっ、でるよっ♡」



こよみの乳首から母乳が吹きだした。

「ほーら♡

お兄ちゃんが妊娠させてくれた
ボテ腹妹のえっちなおっぱいみるくだよっ♡」

何を言うより先に
気づいたらこよみの乳首にしゃぶりついていた。

「あんっ♡嬉しい…♡
「こよみの妊娠みるく飲んでくれるんだ…♡」

蕩けるような甘さの、こよみの母乳を
ひたすら吸いだして赤子のようにごくごく飲む。

「お兄ちゃん…♡」



乳首にしゃぶりついて母乳を飲む俺の頭を
こよみが母親のように、優しく撫でる。

「よかったあ♡
やっぱりお兄ちゃん喜んでくれた♡」

ひたすら夢中でしゃぶりつく俺のズボンを脱がし
ギンギンに勃起したソレを
こよみが母乳のついた手で撫でまわす。

愛液や唾液とはまた違う快感だった。

「こよみね、もうエッチしても大丈夫になったんだよ♡
だから…ベッドいこ？」

「こよみの妊娠おまんこにおちんちん挿入れて
ボテ腹妹と気持ちいい母乳エッチしようね♡お兄ちゃん♡」



安定期に入ったこよみとの、数か月ぶりのセックス――
結局、お互いにブレキ等きかず一日中交わり続け
すでに夜になっていた。

「こよみのポテ腹まんこ、気持ちよすぎるぞ…
何回しても全然おさまらない…」

「えへへ♡こよみだよ♡
お兄ちゃんのおちんちん久しぶりに挿入れてもらえて
おまんこがずーっとキュンキュンしっぱなしなの♡」



「ああ、ほんと気持ちよすぎる…っ
妹の妊娠まんこ、俺が孕ませたまんこ…っ！」

「そうだよ♡
お兄ちゃんのおちんちんで処女膜破って
いっっぱい、膣内に精液どびゅどびゅして
赤ちゃん孕ませちゃった、妹の妊娠おまんこだよ♡」

俺を興奮させる為に
こよみがわざと卑猥な言い方をする。



「気持ちいいねっ♡
大好きな人とのセックス♡
こよみ、お兄ちゃんに出会えて、妹になれて本当に幸せだよっ♡」

「ああ、俺も最高に幸せだよ
きつとこよみのお兄ちゃんになる為に
ずーっと童貞だったんだな」

「こよみもっ♡
お兄ちゃんに孕ませてもらう為に
生まれてきたんだよっ♡」

「何回でも孕ませてやる
何回でも膣内射精して、妊娠させてやるからなっ！」





「そんなこと言われたらっ

おまんこ蕩けちゃうのっ♡子宮が喜んでるっ♡
一生お兄ちゃんのおちんちん離さなくなっちゃうっ♡」

身をよじらせるごよみの膣内を
ガンガンと激しく突きあげる。

やっ

ぱちゅ♡

あー♡

あー♡

ぐちゃ♡

「あんっ、ああんっ♡
ダメダメっ♡赤ちゃんにおちんちん教えちゃダメっ♡
お兄ちゃんのおちんちん♡
パパのおちんちん♡」

「お腹の子供にも教えないとなっ
これがごよみを、ママを孕ませたんだって！」

ぱちゅ♡

ぐちゃ♡

「絶対エッチな女の子になっちゃうよっ♡
パパのおちんちん欲しいがエッチな子にっ♡」

「そしたら、二人まとめて可愛がってやるからっ
こよみも、娘も、何度だって孕ませてやる！」

「お兄ちゃんっ♡お兄ちゃんっ♡
こよみ幸せ過ぎてもうイっちゃうよ♡
ポテ腹おまんこイっちゃいそうなのっ……♡」

やっ

ぱちゅ♡

あ

あ

ぐちゅ♡

「俺ももうイクぞっ！
こよみの膣内におまんこに射精すぞ！」

やっ

「射精してっ♡お兄ちゃんの精液射精してっ♡
妹おまんこにっ、妊娠おまんこにっ、孕みまんこにっ♡」

ぱちゅ♡

ぐちゅ♡

「妹のおまんこに射精してえええええっ！」



「ふああああっ♡♡♡♡♡
イっちゃうっ♡おまんこイっちゃうっ♡♡♡♡」

「あああああっ、イけーまんこイけっ！
俺の精子でポテ腹まんこイけえっ！
こよみつ。。。こよみい。。。っ！」

「イってるよおお♡
ポテ腹まんこでっ、孕み子宮でイってるううっ♡♡♡」

ドビュウっ♡

ドビュウっ♡

「お兄ちゃん好きっ♡好きっ♡大好きっ♡」
注ぐ度に、射精する度に
愛を叫ぶこよみがたまらなく愛おしい——

「こよみ、ずっと一緒だぞ」

「うんっ……♡
お兄ちゃんっ♡と、パパ♡
パパになっても、ずーっとこよみのお兄ちゃんदैいてね♡」



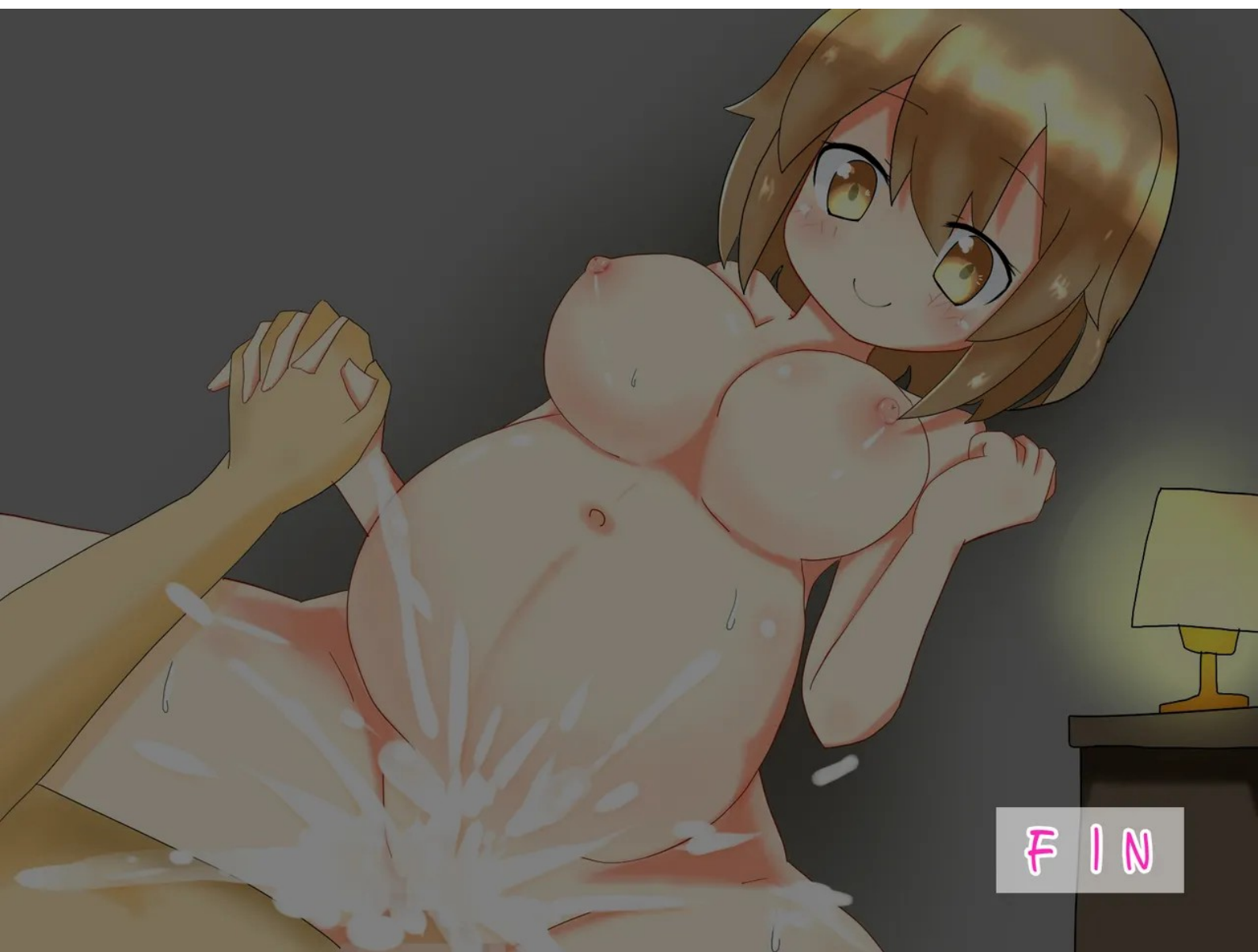


妹派遣委員会——

結局、色んなことがわからないままだが
俺とこよみは間違いなく幸せだ。
だったら、それだけでいいんだろう。

願わくば、他の「兄」達が
こよみの様な、理想の妹と出会っていることを祈ろう。

次はきっと、素敵な妹があなたの元へ——



FIN